

講演 ②

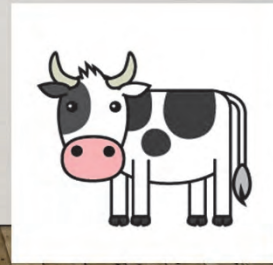
演題 「香取市耕畜連携農業推進協議会」の活動について

講師 元 香取市職員

千葉県農業会議 専門員 高岡 晃 氏

# 「香取市耕畜連携農業推進協議会」 の活動について

千葉県農業会議 専門員 高岡 晃



【2022年12月8日】

No. 1



香取市WCS作付分布図

香北エリア

小見川エリア

新里エリア

令和3年度産	
総面積	194ha
酪農	167ha (86%)
肉牛	27ha (14%)

No. 2

## ● 設立の背景

香取市は千葉県一の水田面積（約7,000ha）を有する水田地帯。  
そして酪農や肉用牛の生産も盛んな地域。  
しかし、当時から稲作農家は米価の下落、畜産農家では輸入飼料価格の高騰等が経営上の大問題となっていた。



そこで・・・

水田農業は



農業施策の活用による稲作農家の経営の安定を目指す。

畜産農家は



安定的な粗飼料の確保、そして安価な稲発酵粗飼料（稲WCS）の利用による生産コストの削減を図る。

2

No. 3

## ● 課題の状況

香取市の水田は利根川沿岸の旧佐原市や旧小見川町周辺に多くあり、湿田のため、水稻以外の栽培がむずかしい。

つまりは生産調整が進まない。



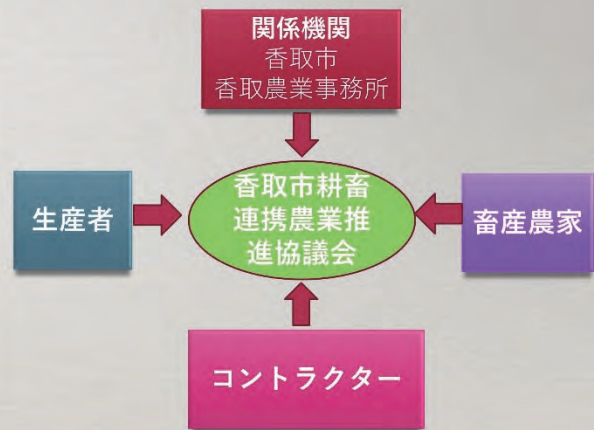
平成21年度からの水田フル活用が転機に（飼料用米や稲WCSへの交付金が増えた！）

3

No. 4

## ●香取市耕畜連携農業推進協議会の設立

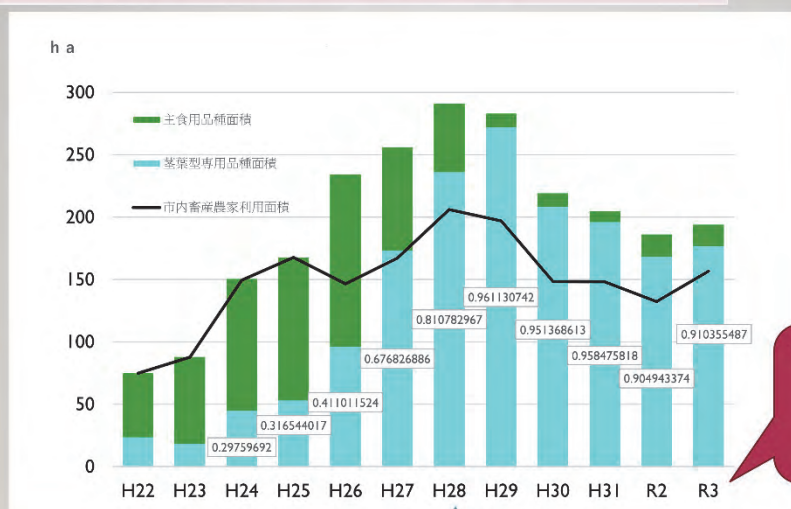
1. 【設 立】  
平成22年1月29日
2. 【構成員】
  - ・ W C S 用稲生産者（営農組合等 5 組織）
  - ・ 畜産農家（WCS利用組合 酪農・肉牛）
  - ・ コントラクター（収穫受託組織 4 組織）
  - ・ 県農業事務所（オブザーバーとして参画していただいた）
3. 【活動内容】
  - ・ W C S 用稲の生産計画、需給調整、流通調整
  - ・ 耕畜連携推進
4. 【事務局】 香取市農政課



4

No. 5

## ●栽培面積及び利用面積の推移



作付面積の内、  
食用品種（ふさこがね、コシヒカリ等）  
17ha  
専用品種（リーフスター、たちすずか、  
たちあやか等）177ha

※12円/kgで流通・販売

この年  
がMAX

5

No. 6

## ●課題とその対応 I

課題は山盛り・・・対応方法は試行錯誤

### ★栽培管理の確立

「まずは、良質なサイレージを作る！」を目指す



田んぼは 雑草だらけ・・・こんなほ場が目立つ。  
「たかが牛のエサ。」こんな意識からの脱却！

栽培技術に関する研修会を開催し、良質のサイレージが作れるように努めた。

収穫の時期、  
使用農薬の制限  
etc・・・

6

No. 7

## ●課題とその対応 II

### ★WCS生産農家の組織化及び参加の条件

- ・主団地として 3 ha以上の集約化され、団地化されたほ場があること。
- ・副団地は 基本 1 ha以上の繋がりのあるほ場を有すること。

収穫時のコントラクターの作業効率の向上

### ★需要と供給の調整

- ・WCS生産農家の作付面積の調整及び販売先の確保  
(作っても売れなければ、OUT  
・・・しっかり調整が大切)
- ・保管場所(ストックヤード)の確保
- ・流通単価の調整

GIVE  
&  
TAKE



7

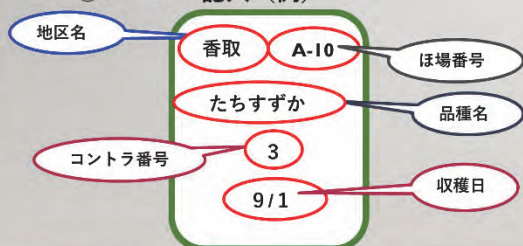
No. 8

## ★良品なサイレージの提供

- ・酪農家のリクエストを聞く（茎葉型専用品種の導入）
- ・品種による収穫期のローテーション化（収穫期の異なる品種の作付け）
- ・不良品の原因調査（ほ場の状況なのか？ 発酵不良の原因はなにか？ など・・・）
- ・すべてのロールの状況管理

（WCS版トレーサビリティの取り組み）

### ◎ロールへ記入（例）



#### ※ほ場のランク付け

収穫前のほ場の状況をA・B・Cの3段階に分け、雑草の有無、ほ場の状況をチェック。単価等に反映させた。

### 【ロールに記載することを義務付け】

- ・地区名、ほ場番号、品種名、収穫日、収穫を行ったコントラクター名を記入。（独自のほ場番号を付け、市のマッピングシステムで地図に記入、場所と耕作者を特定できる）



これにより、不良発酵等の品物の補償や収穫時の状況把握、不良品の原因究明と今後の品質向上を行う上で大きな情報把握に役立っている。

8

No. 9

## ●まとめ

最初は生産調整の一環として取り組みからスタート。  
 水稻農家、畜産農家、コントラクターとの連携協議を経て 栽培技術習得と展示圃の設置を行い、GOサイン！

この協議会は稲WCSの販売価格や受け渡し条件等の詳細を決定するため、耕種農家と畜産農家及びコントラクターとの協議の場として設立された。

香取市耕畜連携農業推進協議会は 結果として単なる事務的協議会ではなく、その他の関連事業に密接に関与している。

- もちろん、生産調整の実績として表れる。
- 地域の耕作放棄地の解消に寄与できた。
- TMRセンターの設立から支援（TMRは品質の均等化ができるため、利用量増加の有効手段）

### 需要と供給の調整に基づく計画的かつ発展的な生産体制を目指す

耕種農家と畜産農家の双方が「WIN ⇄ WIN」の関係を構築し続

けなければ、継続した発展的な事業展開はできない ← ここがコンセプト



ご清聴ありがとうございました



9

No. 10